具体的な取組

本年度重点目標

評価指標

判定基準

	本十及主意日保	共作的な状況	[1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1]	刊足坐牛
学校づくり	_【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを充実 させ,学習への意欲の向上と 自己肯定感を高める。	カリキュラムマネジメントの視点から、教科間や学校 行事とのつながりを十分に意識し、計画的に学習を進 めていくとともに、児童が目的を持って体験活動に取り組めるようにする。 また、学び合いを充実させるために、授業において児 童が自分の考えを話しやすい雰囲気づくりに努め、児 童同士が考えをつないでいく授業を目指す。	(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ―ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。イ おおむね意欲的に登校している。ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート・ 保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下
基礎・基本の定着と学力向上	-【主体的に課題解決する児童 の育成】(学校研究) 主体的に学び、課題解決へ とつなげることができる児童 を育成する。	算数科において、4~6年生は毎単元末で単元まるごとの授業を行う。物事を複合的に考えて課題解決する活用力と実生活に生きて働く力の育成を図る。また、「3問チャレンジ」の授業スタイルを教師も子どもも確立し、3問目では自分の力で問題を解くことができるようにする。	(児童アンケート) 「単元で学んだことを、他の課題に生かすことができましたか。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「単元の中で、児童は、課題を見つけていましたか。」 ア 見つけていた イ だいたい見つけていた ウ あまり見つけていなかった エ 見つけていなかった	児童アンケート・教職員アンケート ト A(児・教)ア+イが90%以上 B(児・教)ア+イが80%以上 C(児・教)ア+イが70%以上 Dそれ以下
	【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもた ちの学習習慣を確立する。	音読・漢字練習・計算練習(高学年は自学ノート)を基本とし、学年に応じた家庭学習の時間を十分に確保する。 一家庭学習強化週間は特に、お便り等で呼びかけを行う。また、学級懇談では、家庭学習のてびきを活用し日頃の家庭学習の取組について確認し、改善していく。 必要に応じて、個別指導も行う。	(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の 目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以 上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ
健康で心豊かな人間性の育成	【道徳教育の充実】 自分を見つめ相手の立場を 考え,仲良く助け合う児童を 育成する。 (道徳の授業ー道徳の授業では、 振り返りを書いて、ノートに貼っ ている。)	身近にある道徳的問題に対して、自分事として捉え、 問題を解決していくことができる力を育てる。そのた 」めにも道徳の時間において、授業や自分を見つめ直す 場となるふり返りを大切にする。	ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「道徳の授業では、振り返りを書いて、ノートに貼っている。」	つ 職ア90%以上
	【規範意識を高める】 社会的なルールやきまりを守 る意識を高め、いじめや暴力 行為のない学校をつくる。	毎月、児童会を中心に、学校全体の様子や行事を考慮して生活目標を設定する。生活目標の達成を目指した具体的な取り組みを行うことで、社会的なルールやきまりに対する意識を高める。 また、全職員が全校児童の担任であるという意識を持ち、児童の様子を観察することで、いじめの兆候の早期発見を目指す。さらに、いじめぼくめつ集会などをとおして、いじめや暴力行為がない学校づくりを目指す。	(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う つ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イどちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・ 保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが65%以上 D…それ以下

【特別支援教育の充実】 個に応じた配慮に加え、ユ ニバーサルデザインを意識し た、誰にとっても支援となる

児童理解の会を定期的に開催し、配慮が必要な児童の 実態と支援の在り方についての共通理解を図る。

視覚的に分かりやすい教材や掲示物の作成をする。ま た、授業においては、重要用語をオレンジカードに書 くなど、組織的な取組の継続を図っていく。

(教職員アンケート)

シンプルで視覚的に分かりやすい掲示物ができた か。

ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった

教職員アンケート

A…ア+イが90%以上 B…アナイが80%以上 C…アナイが65%以上

D…それ以下

【自己健康管理能力の向上】 めあてを持って、自らより よい生活習慣を実践しようと する態度を育成する。

授業の工夫を図る。

生活習慣の乱れは、子どもの学習意欲や体力、気力 に影響を及ぼす。そのため、子どもたちに「早寝早起 き朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣の確 立を目指して学期毎に「バランスアップ週間」を設け て、保護者とともに自分の生活習慣を振り返る。 |学校全体のめあてに従い、各家庭で保護者と「就寝時 刻」「起床時刻」「メディア時間」のめあてを決め て、達成度をチェックしてよりよい生活習慣の実践を 目指す。

(バランスアップカードの結果)

早起きのめあてが守られたか。(保護者とめあてを相談) イ 60%以上 ア 70%以上 ウ 50%以上 エ 50%未満

バランスアップカードで A …ア

В…イ C.... D....I

【家庭・地域との連携協力体 |制の確立】

家庭や地域と学校との繋が りを大切にし、家庭と地域の 教育力を生かした学校づくり を行う。

|学年懇談会で学年ごとの、「家庭生活」の約束(重点 標)を決める。

学校だよりや学級だより等を通じて、取組の啓発を図

|また、取り組み強化週間を設け、その結果を児童や保 |護者に知らせ、意識の継続を図っていく。

(児童アンケート)

保護者とともに決めた「家庭生活」の約束(重点目標) を達成することができたか。

ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった

(保護者アンケート) お子さんは「家庭生活」の約束(重点目標)を達成する ことができましたか。

ア できた ウ あまりできなかった エ できなかった 児童アンケート・

保護者アンケートともに A…ア+イが80%以上 B…ア+イが70%以上 C…ア+イが60%以上 D…それ以下

イ だいたいできた

【学習環境の整備・校内環境 美化】

各教室等の整理整頓を行 い、スムーズに授業が始めら れるよう努める。

|安全点検時を利用して、各教室の備品のチェックや整 |理整頓を行っていく。

長期休業中に職員作業として、特別教室等の清掃や備 品の整理を行う。

(職員アンケート)

全職員で教室等の点検や備品の整理整頓を行い、校内の 美化を進めることができたか。

(校舎外と体育館・1F・2F・3Fの4か所に於いて)

ア:3か所以上 イ:2か所

ウ:1か所

В…イ C....ウ

D...エ

エ:どこも不十分

【業務改善】

月当たりの時間外勤務時間 を、60時間以内にする。

- 毎月、第3水曜日を定時退庁の日とする。また、毎月1回各自 定時退庁日を設ける。
- 週初めに業務に関する週の目安を立て、予定退庁時刻を設定し 週案に記載することで、職員が時間管理の意識を持つようにす る。今年度の最終退庁時刻は、午後7:30とする。
- 業務の平準化を推進する。管理職は、特定の職員に偏らないよ う留意して分担させる。
- 県内一斉リフレッシュウイークは、8月11日~14日とし、 併せてその期間は学校閉庁日とする。 PTAの会合等で多忙化改善の取組に対する理解を求める啓発を

(勤務時間調査)

- ア:月当りの時間外勤務時間が45時間以内の職員が30%. 45~60時間の職員が70%
- イ:月当りの時間外勤務時間が45時間以内の職員が20%, 45~60時間の職員が60%, 60~80時間の職員が
- ウ:月当りの時間外勤務時間が45時間以内の職員が20%. 45~60時間の職員が50%, 60~80時間の職員が 30%
- エ:月当たりの時間外勤務時間が80時間を超える職員が1人 以上いる。若しくは、ウの目安を超える。

A …ア В…イ C…ウ

D....I

評価: A 達成 B おおむね達成

C · D 改善が必要

行う。